

事業実施状況 指定管理者 自己評価票

《別紙8》

3

施設名	国分寺市立しんまち児童館および第一・第二新町学童保育所および戸倉学童保育所
指定管理者名	株式会社 こどもの森

※評価欄は、「5. 市の要求水準を大幅に上回っている」「4. 市の要求水準を上回っている」「3. 市の要求水準を満たしている」「2. 改善が必要である」「1. 抜本的見直しが必要である」のいずれかを記載すること。

指標	評価項目	評価	理由
収支の 確実性 適正	収支計画に基づき適正に執行されているか	3	年間を通しての収支において適正に執行した。
業務の 履行 状況 の評価	協定等に基づき業務が実施されているか	3	感染症対策のため、未実施のものもあったが、市の規定に従いつつ対策を行いながら実施していった。
	開館予定日数・開館時間は守られているか	3	仕様書等で求められた時間を遵守している。
	業務遂行に必要な従業員数が確保され、執行体制が明確になっているか	3	業務遂行に必要な従業員数が確保されている。また、館長を中心として執行体制が明確になっている。
	管理運営に必要な有資格者(防火管理者等)が確保されているか	3	館長・リーダーは防火管理者資格を保有しており、届出をしている。 また、保育や館運営に係る適切な職員配置および雇用形態であり、体制も明確になっている。
	書類は適正に保管され、必要な報告を市に行っているか	3	PCはワイヤー錠をつける、または鍵のかかる書庫にしまい施錠している。 個人情報が含まれる書類は鍵付きの書庫に保管している。また、必要な報告は遅滞なく丁寧にしている。
	施設全体が清潔に保たれているか	3	仕様書で求められた清掃を行い、軽微な修繕は職員が行う等して清潔で安全な状況が保たれている。今年度は事務所回りを中心に環境整備を行い、利用者視点に立った使い易い備品・保育教材の配置に努めた。
	法定点検や検査等は確実に実施しているか	3	法定点検や業務上必要な点検は確実に実施している。報告書等の書類はファイリングし、適切に保管している。
サー ビス の 質 に 関 する 評 価	利用者の満足度はどうか	4	昨年度より利用者数も増加し、利用者アンケートにおいても児童館・学童ともに満足度が上がった。 また、学童においては、昨年度より始めた個人面談が、子どものことについてしっかりと話せてよかったと複数の保護者より高評価を頂いた。
	利用者の声を施設の運営やサービスの向上に反映しているか	4	アンケート、昨年度好評だったなんでもかんでも言いたい放題の開催回数を増やしたり、子ども達が児童館に対してのお願いを葉っぱに書いて木に貼り、お願いが叶うと木の実が生る「しんまちの木」を作り意見とその結果の可視化を行ったことにより、多くの意見が集まり、頂いた意見を反映し、利用者満足度の向上につながった。
	担当者のマナー、言葉づかい、服装等は適切であるか	3	指定管理者主催の接遇マナー研修への参加に加えて、館内研修を行い職員のマナーの向上に努めている。 昨年度、高評価であったユニフォームは継続して使用し、親子ひろば利用者からも学童、児童館の利用者からもスタッフがわかりやすく、安心との声を頂いている。
	クレーム等に対して適切に対処しているか	3	クレームに対する課題や現状の問題点を整理して検証を行い、解決に向けて迅速に対応した。また、子供たちの降所時間や降所方法を子どもたちと一緒に共有し10分前には複数の職員で降所確認するなどして降所ミスが起こらないように運営した。 また、朝礼やミーティング等で職員間で情報共有を行った。
	個人情報が適切に取り扱われているか	3	個人情報保護マニュアルを職員に周知し、個人情報の管理運用を的確に行った。 また関係機関とのやり取りの中では、守秘義務を意識しながら情報の共有を行った。
	業務に必要な研修を実施しているか	3	避難訓練時に消火・通報・AEDの訓練を行った。また、市、指定管理者の主催する研修にも参加している。 新しい職員がいたため、基礎研修を多数受講し、館内での勉強会を毎月1回以上実施した。
	合理的配慮等障害者への対応は適切であったか	4	移動・排泄・食事に介助が必要な児童に対し、加配職員を付けて対応した。 軽度の障がいにおいては全体の見守りで対応した。インクルーシブな支援実現のため、援助方法について支援者間で情報を共有した。
	業務の改善を図ったか (※改善の指摘事項があった場合のみ記載)	3	—
施設 水の 準 特 性 に 応 じた	自然災害への対応	3	火災や地震を想定した避難訓練を定期的に実施した。 また、雷雨や降雪の予報が出た際には学童児に向けて話をし、状況判断する力を養う機会としている。
	学校及び地域等との連携による児童の育成支援への取り組みについて	4	小学校の対応に沿った運営が出来るよう、学校とは定期的に情報交換を行っている。第十小学校では空き教室を分散教室として借用するため、毎週副校長先生と連絡を取りあった。 今年度も地域の方々から七夕の笹を頂いたり、地域のおまつりに遊びコーナーを出店した。
	配慮を要する児童への対応について	4	学童の障がい児等配慮を必要とする児童の育成には、児童の特性を職員会議や日常業務ノートなどで職員全体に周知した。また、長期休業中などは児童館と協力して保育する等の工夫をした。 不登校の中高生が来館しやすいよう、児童の特性を職員会議や日常業務ノートなどで職員全体に周知した。来館時にはコミュニケーションを多く取り、運営に巻き込んでいくなどして社会性を育むきっかけ作りにも努めた。
指定管理者の自己評価			
総合評価		評価の理由等	
4	市の要求水準を上回っている	昨年度よりも、児童館来館者数が3000人以上増加し、アンケート結果等においても良い結果を出すことが出来た。また、学童保育所の利用人数が増加する中でも、上手くスペースを活用したり、空き教室を借りたりすることで利用児童・保護者のストレスを緩和することができた。昨年度から引き続き実施した個人面談や長期休暇時の配食サービスにより、利用者の要望にもこたえることができた。 児童館は新型コロナウイルスの影響で中止になったイベントもあったが、昨年度より開始し、好評だった寝相アートは今年度は回数を増やし利用者に喜んでいただけた。並木公民館・図書館との共催行事である子どもまつりには約1100人の児童・保護者・地域の方々に参加してくれた。来年度、様々なイベントが開催出来るようになれば、さらなる来館者増、満足度向上につなげていけると感じる。 評価者氏名： 藤森 光一	